

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：中部整備局都市整備課
担当課長名：筒井 祐治

| | | | |
|---|-------------------------------------|--|--|
| 事業名 3・4・8水源橋線 <small>すいげんはしせん</small> | 事業区分 街路 | 事業主体 愛知県 | |
| 起終点 自：愛知県豊田市寿町2丁目4番地 <small>とよたしことぶきちょう</small> 至：愛知県豊田市山之手5丁目95番地 <small>とよたしやまのて</small> | | 延長 0.80km | |
| 事業概要 水源橋線は、豊田市の基幹産業である自動車工業の中核機能の集中地点と東名高速道路豊田インターチェンジを結ぶ幹線道路であり交通発生量は非常に多く、現況は中央分離帯のない片側2車線道路で歩道も狭小のため自転車、歩行者は非常に危険な状態にある。そのため、早期にこの状態を解消し都市機能の向上を図る。 | | | |
| H元年度事業化 | S46年度都市計画決定 (H9年度変更) | H元年度用地着手 | H8年度工事着手 |
| 全体事業費 | 52億円 | 事業進捗率 | 86.0% |
| 計画交通量 | 30,752台/日 | 供用済延長 | 0km |
| 費用便益分析結果 | B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 27.2 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 3.9/67億円 (事業費：3.5/66億円 維持管理費：0.38/0.38億円) | 総便益 (残事業)/(事業全体) 106/106億円 (走行時間短縮便益：152/152億円 走行費用減少便益：-35/-35億円 交通事故減少便益：-11/-11億円) |
| 事業の効果等 ・都市圏の交通円滑化の推進（現道の混雑旅行速度20km/h未満が改善される） ・都市の再生（DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する） ・無電柱化による美しい街並みの形成（道路の改築にあわせ電線類の地中化を行う） | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 平成8年度より地元、愛知県、豊田市等によりラウンジジョップを実施しており、大変関心の高い事業となっている。地元、豊田市等より早期整備を要望されている。 | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 土地利用の高度化並びに面的整備による市街化が著しく発展しており、年々自動車交通は増加の一途をたどっている。 | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 H16年度用地買収完了の目処が立った。残事業は、用地：1件、工事：450m | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業用地買収において、代替地、用地単価等の問題で交渉が難航した。H16年度用地買収を完了し、H17年度事業完了を目標としている。 | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 新工法による大規模なコスト削減はないが、再生材使用によるコスト削減を図るとともに、「あいくる材」の積極的な活用により環境負荷の低減に努めている。 | | | |
| 対応方針 対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考える。 | | | |
| 事業概要図 | | | |
| <p>The map shows the project location within Aichi Prefecture. It highlights the Toyota City area, showing the project route (水源橋線) connecting the Toyota Interchange (豊田IC) to the Toyota City Office (豊田市役所). The route is 0.8km long and 25m wide, with a daily traffic volume of 30,752 vehicles. The map also shows surrounding roads like Route 153, Route 248, and the Toyota Valley Line (豊田刈谷線).</p> | | | |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。